※※※保護者の方にも読んでもらいましょう。※※※

TO the NEXT from HERE
～ここから次の場所へ～

７２回生 進路通信
発行日　2018年(平成30年)
10 月　19 日　金
第　29　号

結果自然に成る(「禅語」)

～結果は然るべくなる～

やれるだけのことを精一杯やったら、あとは自然に実るのを待てばいい。信念を持ってコツコツ取り組めば結果は後からついてくる。
結果を気にして心を乱す前に、完全燃焼したかが問題だ。

試験に受かる人は日頃何をメモしているのか

暗記の達人が教える「思い出す技術」

高校時代の偏差値は35。そこから関西学院大学法学部に現役合格。学生時代に司法書士試験、卒業後は1年4カ月という短期間で公認会計士試験に突破。現在、司法書士として活躍する碓井孝介さんを変えたのは「暗記」だった…。碓井さんが高校時代に一念発起して編み出した、暗記を中心とした独自の勉強法を始め、あらゆる試験に合格する秘訣を詰め込んだ自著『試験は暗記が9割』(朝日新聞出版)でも紹介した、「記憶の入り口」を増やす「思考メモ」術をお伝えします。

試験に受かる人に共通するところ

試験に受かる人には、共通するところがいくつもあります。その一つが、メモを取ること。「先生業」をしたことがある人なら、納得できることでしょう。ここで注目してほしいのは、受かる人がメモをしている内容です。覚えたり理解しなければいけないメインとなる情報はもちろんのこと、先生が話した雑談やクラスメートのとんちんかんな質問など、一見すると無駄に思えることまでも、事細かにメモしています。このメモこそが思い出すきっかけとなり、長期記憶に役立つといったら意外でしょうか。

ここで、思い出すきっかけを持つ記憶と持たない記憶について説明しましょう。

記憶は、意味記憶とエピソード記憶に分けることができます。意味記憶とは、簡単にいうと知識としての記憶のこと。「1853年に黒船で来航したのはペリー」「東京ドームのJR線最寄り駅は水道橋駅」というような記憶です。エピソード記憶は、経験や感情などを通して形成される、いわば思い出としての記憶です。「念願のマイホームを購入した日に飲んだ、シャトー・オー・ブリオン(ワイン)がおいしかった」「好きな人に初めて告白したときはどきどきした」、こういった思い出がエピソード記憶です。

これらの意味記憶とエピソード記憶、鮮明に覚えているのはどちらでしょうか。誰にとっても、明らかに後者のはずです。「マイホームの購入祝いに飲んだ」という思い出があることで、ワインの銘柄は記憶にとどまりやすいのです。つまりエピソード記憶は「思い出すきっかけ」に支えられた記憶といえます。であれば、意味記憶として覚えなければいけない情報も、意図的に思い出すきっかけを加えることで覚えやすくなります。これを実現させるのが、前述したメモ作戦です。具体例やクラスメートの発言など、テキストにどんどん書き込めば、「あっ、ここはアイツ(クラスメート)が馬鹿な質問していたな」となり、思い出すことができるようになるのです。

記憶の入り口を増やす形でメモをとる

思い出すきっかけを増やすことは、問題演習においても意識すべきです。問題を解くときは、覚えた知識をあとから思い出せるように、記憶の入り口を増やす形でメモします。まず、問題の余白に「思考回路」をメモしましょう。問題として「東京ドームの最寄り駅(JR線)を答えなさい」と聞かれたとします。解答・解説には、「水道橋駅」と記載があるはずです。これについて「飯田橋だったような、水道橋だったような、駅名に橋がついていたな…」と思ったら、鉛筆で小さく「飯田橋？水道橋？」とメモしてください。

一通り勉強が終わって2回目、3回目の勉強をしたときに、メモ書きを読むことで「そうそう、初めは飯田橋と水道橋の違いがわからなかったよな…」と気づくことができます。こうすることで、「初めはまったくとんちんかんなことを考えていた」「〇〇と勘違いをしてしまった」ということが明らかになり、一つの「経験」としての記憶になります。また、問題を解いたときは「感想」もメモするといいでしょう。「水道橋ってタレントの水道橋博士さんの名前の由来？」「水道橋って簿記の専門学校がたくさんあるイメージだな」。このように、思ったことがあれば「水道橋博士？簿記？」というように、一言だけメモに残します。さらに、直接の関係がなくても、関連知識で気づいたことがあればメモをしておきましょう。1853年のペリー来航に関する問題を解いているときに、「1853年といえば、ヨーロッパではクリミア戦争、ナイチンゲールが活躍した」と気づいたら「クリミア戦争、ナイチンゲール」とメモします。こうすれば、思い出すきっかけを増やすことができます。東京ドームの最寄り駅を聞かれてパッと思い出せなくても、水道橋博士さんの顔を思い浮かべることができるかもしれません。ペリー来航の年号が出てこなくても、「クリミア戦争と同じ→クリミア戦争は1853年→ペリーも1853年」と思い出せる可能性もあります。とにもかくにも、思い出しやすいように覚えることが重要なのです。問題演習の場面でも、これを忘れないでください。

【東洋経済オンラインより引用】

中間テスト各教科の先生からのアドバイス

残すテストもあとわずか。しっかりと読んで、次のテストに向けてしっかり頑張ろう！
「受験生」という意識をしっかりと持とう！受験(受検)先を意識しよう！！

国語	国語のワーク、新研究から全く同じ問題を出題したにもかかわらず、できていない人が多かったです。前回にも言った漢字のはね、とめ、はらいが、まだ、いい加減な人がいます。文字は正確に、はっきりと大きく書きましょう。テスト返却時に説明したことをもう一度確認して、しっかり復習しておいて下さい。
数学	・授業の始めの時間に復習した小テストと全く同じ問題を出題しました。一回は解いたことのある基本問題でしたが、問題によっては正答率が64%(約3分の2)しかないものがありました。入試では1問の配点が高く、ちょっとしたミスが影響してしまします。今一度、基本計算の大切さを心に刻んでください。 ・二次方程式や放物線と直線の交点の問題は、最も基本的な問題を出題しました。この考え方を基礎としてさらなる問題に挑戦してください。 ・作図は次の実力テストにも出題します。コンパスや直定規の準備はもちろん、作図の種類について再度確認し、実際に描く練習をしておきましょう。
社会	今回は、日本国憲法の条文を根拠とした三大原理や選挙制度等についての出題でした。公民の三大原理や政治の分野では、一言一句間違えてはいけないものも多くあります。また、普段の生活ではあまり意識しないけれど、生活と密接に関わりのある内容が数多くあります。細かいところに気を配りながら、漢字のミスも含めてなくすように心がけましょう。残りのテストも少ないですが、一回入魂！次回の実力テストも頑張ってください。
理科	エネルギーを中心に試験をつくりました。計算問題に、関しては授業で取り組んだ分、できていた人が多かったと思います。作図やグラフを書くときは落ち着いて、必要なことはしっかり書き残すようにしましょう。あとは、所々で漢字間違いが見られました。漢字の確認をもう一度入試までにしておきましょう。次は、実力テストです。受験勉強も含めてしっかり勉強してください。
英語	関係代名詞については、学習していたのdがLesson5の前半に出てくる主格だけだったこともあり、今回はごく基本的な問題のみを出題しました。次回のテストでは教室での学習が進みますので、目的格も含め、様々な文を取り上げることになります。授業で新文型を学習する際に、数学の公式に当たる文法のきまりをしっかりと理解して以前学習した文との違いを確認していきましょう。